

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所として（児童発達支援・保育所等訪問支援）		
○保護者評価実施期間	令和6年 4月 1日		～ 令和7年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40	(回答者数) 36
○従業者評価実施期間	令和6年 4月 1日		～ 令和7年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所の環境	ご利用者様一人一人の年齢や発達に合わせて、生活環境の見直しを行い、子ども達が自ら理解して行動することができる(しやすい)環境となっている。	現状に満足することなく、都度見直しを行い、子ども達が成長していける環境を目指す。
2	従業者の子どもや保護者様に対する想いが強い事。	利用されている子どもや保護者様の気持ちに寄り添い、目線をそれぞれの高さに合わせて物事を考える事が出来、常に子ども達の成長を願っていること	支援現場に出る事で経験を積む事や研修に参加してより専門的な知識をえる事で、より良い支援が提供できるようにしていきたい。
3	発達や年齢に合わせて、午前クラスと午後クラスに分けて支援していること。	午前クラスは支援員と1対1で過ごし、午後クラスは子ども2人に対して支援員を1人配置している事。	支援員の配置と専門性を高める為、次年度は理学療法士を採用した。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者支援(保護者様同士の交流する機会)	保護者様のニーズがどの程度あるのか。また、その場を担当できる支援員が少ない事。	どのようにすると保護者様同士が交流する場を設けられるのかを検討し、その場を担当する支援員のスキルアップを図る。
2	地域の方々との交流の少なさ。	事業所内のことに手を取られてしまい、地域での活動へと広げられずにいる。	まずは、事業所内の課題解決を優先としつつも少しずつ地域との交流を深めていけるようにする。
3	勤務時間内で行えるようにするための業務の工夫	子ども達や保護者様への支援に必要なツールの準備の他に、記録や計画など、書面に残さなければいけない業務とのバランスが課題。	それぞれの業務を見直し、業務時間内に行える体制整備が必要。